

令和元年度 富山県民生涯学習カレッジ砺波地区センター 運営会議 議事概要（要旨）

日 時 令和2年2月10日（月）14:00～15:45

場 所 富山県民生涯学習カレッジ砺波地区センター 第1学習室

出席者 運営委員【10名】

仲井 文之（富山国際大学 教授）
山本 正宏（南砺市商工会青年部福光支部 支部長）
大家 芳夫（介護老人保健施設 ゆうゆうハウス 事務長）
塚崎志津江（小矢部市子ども家庭支援センター 家庭児童相談員）
桐山 巧（雷鳥会砺波支部 支部長）
三輪 秀秋（津沢地区自治振興会 副会長）
田悟 敏子（富山県「とやま食の匠」）
飛田 久子（となみ野高等学校 学校評議員）
野村喜美子（小矢部市ボランティア連絡協議会 副会長）
島谷 雅子（公募委員）

事務局【4名】

富山県県民生涯学習カレッジ 本部	1名
富山県教育委員会生涯学習・文化財室	1名
富山県民生涯学習カレッジ砺波地区センター	3名
となみ野高校	1名

1 開会（進行：県民カレッジ砺波地区センター 野畑副所長）

2 開会の挨拶（県民カレッジ砺波地区センター 中明所長）

- ・全県的な視点で有意義な運営会議になることを期待している。
- ・当センターは今年で20年目を迎え、多くの方々の支えで地域の生涯学習を提供することができた。
- ・当センターの役割は講座の質を高める、地域の生涯学習をリードするとともに受講者が笑顔になるような講座運営である。
- ・地域の実情や特色に応じて運営するが視野が狭くなりがちであるため、忌憚のないご意見をいただき、次年度に向けて準備したい。

3 委員の紹介（各委員・事務局の自己紹介）

4 議事

I 令和元年度事業報告（事務局）

- ・地区センターが関わる講座の実施報告（センター主催各講座、教養講座、共学講座、自遊塾）
- ・わくわくシアター、キャンパスフェスティバルの実施報告
- ・開講講座状況、受講者状況（講座アンケートも含む）の報告
年代別受講状況 教養講座、ふるさと探究講座専門は70代が多く、その他は60代と70代が半々。
地域別受講状況 受講者数が概ね過去5年間で今年が一番多い。

- (進 行) ここまでのところで意見はあるか。
(委 員) 改善してほしいとの感想はないか。
(事務局) 改善を望む声もいくつかあり、担当者と話をするなど解決に向けて対応をしている。
(進 行) 個別の案件であり、全体的な問題に関わる問題ではない。
(委 員) 定員以上の募集があるにもかかわらず受講者数が定員数を下回っているのはなぜか。
(事務局) 受講者決定後にキャンセルが発生した。

II 砺波地区センターの運営に係る現状と課題

(1) 学習機会の提供

- (事務局) 定員に満たない講座の受講者、および新規受講者を増やすにはどうすればよいか。
(委 員) 人生 100 年時代特別講座は良かったので、来年度後期にも同様に取り入れてほしい。その際に介護や認知症に関する講座を入れてほしい。また、テレビ会議システムでの共通講座はできないか。
(事務局) 介護や認知症に関する講座は地域課題学び活かし講座として取り上げることはできる。また、テレビ会議システムによる同時中継講座は要望があれば検討するが、以前実施した際には受像器の数の問題や対面交流がないという問題から再度要望の声はなかった。
(進 行) 要望があったということで他地区の様子も聞いて検討してほしい。他に意見はあるか。
(委 員) 小矢部市町内回覧による広報は私も見た。その効果が出ている。以前はなかった 40～50 代の受講があって驚いた。SNS を利用している高齢者も多く、既存のホームページと関連づけたら安価に広報活動を行える。
(進 行) 受講者のスマートフォン（以下スマホ）の利用の様子はどうか。
(事務局) QR コードを有効活用したい。実際にスマホの利用者は多くないとの意見があり、スマホでのホームページ紹介の試みを控えた。
(委 員) スマホ利用者数は確実に増える。町内回覧での広報に QR コードを入れたらよい。
(事務局) 年代でスマホの利用者が多い、少ないの境目がどこかにあると感じている。
(委 員) 受講者は意欲的で未来志向の人が多く、新たな試みを喜ぶ人の方が多い。
(事務局) 年代別受講状況を見ると 60 代が 273 名もいる。実態を見ながら対応したい。
(事務局) 60 代の就業者数は以前と今は違うので 60 代の受講者が多いことは良いこと。元気な 70 代以上が増えてきた。40～60 代に対する広報を考えなければならない。
(進 行) 40～60 代をターゲットにするなら、それなりの（広報のための）環境整備が必要である。
(事務局) 「わくわくシアター」では来場者を増やす手立てを考えるのが課題である。
(進 行) 鑑賞後に語り合うなどサロン化したらどうか。
(委 員) 講座もシアターも中身が重要である。映画の回は来場者数が多い。映像センターではどのように作品の選定をしているのか。
(事務局) 映像センターで数本をセットにしたものを 4 種類用意し、それを 4 地区で回している。今年度の砺波地区センターにおける月 1 回の上映での平均約 10 名は少ないと言えるか。
(委 員) 仲間で誘い合ったり、口コミで広がったりして仲間作りの場になることが大事である。映画が人気のようだ。
(進 行) 映画の要望、誘い合えるシステムづくり、サロン化など検討してほしい。

(事務局) 本部においても教育文化会館と CiC で上映し、口コミで広まっているようである。砺波区センターでも口コミで広まっていけばよい。

(2) 学習情報の提供

(事務局) 広く学遊ネットを活用してもらおう手立てを考えることが課題である。

(委員) 学遊ネットの公民館情報について地区センターが介入して充実化できないか。更新されているものもあれば、されていないものもある。何か考えは持っているか。

(進行) かつては公民館からの申請をもとに県民カレッジが学遊ネットに入力していた。

(事務局) 現在は生涯学習関連団体が多いため全てを学遊ネットに網羅することは不可能である。学遊ネットには県下の全公民館が登録されており、各公民館で入力できるようになった。カレッジでは入力できない。アクセス件数のうち3分の1は公民館だが、それに応えられる状態ではないのが現状である。各公民館で入力してもらうしかない。

(進行) 公民館主事の業務が引き継がれているかという点も問題である。働きかけはできるのか。

(事務局) 去年は公民館主事研修会で指導した。また、求められれば講習に行く。数字を見ると砺波地区センターの1ヶ月のアクセス人数は約570人で決して少なくない。これに満足するかどうかの問題である。

(進行) 情報を求めている人に細やかに応じられる体制づくりを期待する。

(3) 学習相談

(事務局) 相談件数は昨年度に比べて月約10件増えている。今後さらに充実したものにしたい。

(進行) 学習相談について意見はあるか。学習相談件数を増やしたいと考えているのか。

(事務局) 多様な相談に対応したい。他の生涯学習団体と関係を密にして、より一層充実させたい。

(事務局) 講師紹介など多様な形で利用してほしい。

(事務局) 今は必要な情報は自分で探せる時代なので、現在の学習相談件数の内情は砺波地区センターの受講者の数とほぼ同義であると考えられる。1ヶ月で約10人増加は少なくない。砺波地区センターは来やすいか。

(委員) 来やすい。運営委員になって修了率を知ってから、受講したくても欠席を気にして受講を遠慮するようになった。同様な思いの人もいるのではないか。

(事務局) 修了率は分析のためのものである。遠慮せずに受講してほしい。

(委員) 特に共学講座は定員を超える人気がある。落選する可能性がある友人を誘いにくい。

(事務局) 学校としては共学講座は生徒の授業を一部公開しているものであり、社会人受講者はある意味では生徒の模範となしてほしいという思いがある。欠席を気にして受講を遠慮するという思いも理解できる。

(事務局) 共学講座は生徒が主であるので、生徒の空いたところに入るしかないので定員で締め切るの仕方がない。生涯学習の意義を考えたら、共学講座以外の講座では特別な理由がない限り施設の許容範囲内で定員を超えても問題はない。修了率は合格不合格のレッテルを貼るわけではないので気にする必要はない。今年度の修了率8割は高い数字である。

(4) 学習交流（キャンパスフェスティバル）

(事務局) 「生徒と社会人の融和」をテーマにし、「ミニ講座」を行ったり、「朗読&サロンコンサート」を広い会場で行ったりするなどの工夫をして来場者が昨年度に比べて227名増えた。餅つきイベントは人を呼び込む効果があった。3年続いたので違うことを考える時期か。

(進行) 小さい子どもも来場したのではないか。

(事務局) 受講者や高齢者に伴って子どもも来場した。これは貴重なことである。家族連れで来場したということは来場者数を増やすという効果とともに、年齢の垣根を越えて裾野を広げられたという効果もあったということで餅つきイベントは良かった。

(進行) 資料 p.10 のステージで受講者と高校生と一緒に歌っている写真は素晴らしい光景である。

その他

(進行) 最後に感じたことなどないか。

(委員) この運営会議に参加したことで生涯学習のことが分かった。50~60代がターゲットと聞き、30~40代は内容的にも参加しづらいと感じた。

(事務局) 50~60代をターゲットにしているというのは人生100年時代特別講座である。

(進行) あらゆる年代が生涯学習に取り組んでほしいが、仕事や家庭の都合で取り組めないとの事情もあると思う。

(委員) 共学講座を初めて受講しようとする人は、受講できるならどれでもいいのではなく、受けたいものがあるから申し込む。抽選で落選したらその初めての人を誘った方が申し訳ない気持ちになる。今年良かったから来年も申し込もうかという人もいると思う。前年度受けた人が再度受講している場合もあるようだが、どのように受講者を選別しているのか。

(事務局) 初めての方を優先として、抽選で受講者を決めている。

(進行) 複数申し込む場合も初めての人を優先しているのか。

(事務局) 基本的に初めての方をどの講座においても優先している。しかし、多くの複数を同時期に受講というのは難しいと思う。

(委員) スマホについては60代から使い始めた人もいるし、70代で使い始めた人もいるし、持っているけど完全に使いこなせない人もいる。現在の受講者で使いこなしている人は多いか。

(進行) 今年度の講座でスマホでのホームページ紹介は自粛したと事務局から説明があったが、本運営会議の委員からはますます普及していくとの意見があった。今は過渡期であるので見極めながら進めていったらよい。一気に変えていくと大変なことになる。

(委員) スマホを使いこなせない人は受講できないという時代になってくるということか。

(委員) 広報の仕方において、スマホに対応したものもあり、紙ベースのものもあるということ。しかし、実際はスマホでLINEを利用する高齢者も増えているようだ。

(進行) パソコンの出始めの頃のように（スマホ利用に関連した）講座があってもよい。

(事務局) 共学講座は高校生の授業であり、公開できる範囲が限られるということが前提にあることは踏まえてほしい。したがって第2、第3候補を考えればよい。また、初めての人を優先することは理解してほしい。スマホについてはスマホ対応のホームページになれば必要に応じて見てもらえる。適宜必要に応じて使えるようになればよいと考えている。

(委員) 共学講座は他地区にもあるのか。

(事務局) 富山は雄峰高校、新川は新川みどり野高校、高岡は志貴野高校で実施されており、各校に地区センターが併設されている。

(進行) この会議で多くのことを共有できた。事務局にこのあとの進行をしてもらおう。

(事務局) 途中退席の委員からの意見を紹介する。ホームページの講座案内など詳細が分かりやすく提示されている。受講者の感想をもっと掲載してもよいのではないか。定員の数には理由があるのかという意見は審議の中で説明された。

5 閉会の挨拶 (県民カレッジ砺波地区センター 野畑副所長)

- ・多くの貴重な提言や激励の言葉をいただいた。
- ・当地区センターが砺波地区の生涯学習の拠点として地域のニーズに応えられるよう邁進したい。

6 閉会